



●発行  
早稲田大学校友会  
鹿兒島支部

●住所  
鹿兒島市金生町3-1  
山形屋本部秘書室  
☎0992-27-6310(代)

# 連携と結束固める 鹿兒島稲門会 校友会県支部 総会開催

平成元年度、校友会鹿兒島県支部、及び鹿兒島稲門会総会が、七月二十二日林田ホテルにおいて開催されました。

本年は、大学側より西原総長及



び校友会役員のみならず、本県在住の校友に案内をいたしました。予想以上の百名に及ぶ会員の出席があり、幹事役として大いに張り切った次第であります。

松元会長の冒頭の挨拶では、まず元支部長故増田静氏を偲んで御冥福を祈る黙禱にはじ

まり、「本年度の入試においては志願者が殺到しており、私立大学、学部別難易度では殆どの学部が一位を独占して、受験生の希望が非常に高いとのこと。

創立百年を迎えて学内の整備も順調に進み、安部球場の跡には東洋一を誇る図書館が建てられ、これを中心として総合学術情報センターが完成する、などの早稲田キャンパスを中心とした整備が着々とすすめられている。当支部においては、本年から会報として『紺碧』が発行されたので、県内会員の相互の情報交換など、活発な利用を希望したい。そして、来年の総会は、七月二十一日に開催する予定をたてて、西原総長をお迎えして、総長の最終年度の意義ある支部総会を開催したい」という大学の最近の状況報告が行われました。

続いて、六十三年度事業報告、決算報告が承認された後、本年度に引き続き県内の各出先に勤務されている校友との交流を深めるということで、支部役員との懇談会を開催すること、常任幹事会の開催、会報『紺碧』の発行(年二回)、



早慶ゴルフ会の参加などを決定して総会を終了しました。

その後のパーティーでは松元会長、越山顧問など多くの先輩、後輩が交わりながら焼酎を酌み交わして、年一回の楽しいひとときを過ごしました。

今年は、古い校友も数多く出席され、特に初めて出席されたトニー田原氏には、ハワイアンバンドの演奏で場内の雰囲気をもり上げていただきました。

毎年恒例となりましたお楽しみ抽選会は、今年MBCに入社したアナウンサー・宇土嬢の司会で始まり、沈寿官氏をはじめとする各会員から提供していただいた多くの景品が次々に披露されました。なかでもJAL提供の東京ペア往復券は見事、稲門会事務局長として御苦労の多い川畑孝則氏が獲得して、万場の喝采を博しました。

本年度総会も、幹事諸兄が準備や設営を分担し、又、事務局の行き届いた手配によって無事終了しました。これを機会に稲門校友の連携と結束がますます固くなり、更に活動が盛んになることを期待いたしております。

## 報告

鹿兒島稲門会幹事長

大西 洋逸 (S30年法学部卒)

# さしほま 雑感

日本石油基地(株)常務取締役  
喜入基地所長

長澤 金吾 (S28年理工学部卒)

鹿兒島の喜入町に住むようになって、早いもので二年になる。その間、仕事の方は地元のかたがたのご支援のおかげで、まずは無事平穩の日々を過ごしている。



今年の夏は、墓参のついでに久方ぶりに我が山に登ってみた。山と言っても五反百姓の持山を猫の額程、父から分与して貰ったものである。

鹿兒島を初めて訪れたのは、昭和四十三年の秋。当時喜入町で日本石油の原油基地の建設が進められており、その視察が目的であった。以来、昭和六十二年に鹿兒島へ転勤するまでの間、鹿兒島へ出張すること実に八十回に及ぶが、いくらか回数が多すぎてもしよせんは旅人であり、鹿兒島に実際に住んでみなければ本当の鹿兒島はわからないのではないか。

いろいろな仲間に加えていただき、この頃では名刺帳もだいぶ厚くなった。さらに天文館で偶然席が隣り合い、意気投合した人々も加えると、鹿兒島の人との出会いは各界各層に及ぶ。よく鹿兒島へきて二年しかならないのに随分と地元について詳しいですねと言われる。おせじであつてもまんざらでもない。そこで、「いや、実は鹿兒島とは二十年前からの関係ですよ」と説明することになる。

## シリーズ 集まり散じて (2)

### 四十年ぶりに

### 登った山は...

NTT鹿兒島支社長

吉武 操 (S33年法学部卒)

山で、家一軒建てれば、たちまち金山裸になる位しか木は立っていない。

それでも中学時代、私自身、手伝って植林したのだから、懐かしくもあり、愛着も湧いた。

久しぶりに見る山は、父が下草を刈り、間伐もしてくれているので意外に整然とした木立の山にな

そのうえ人情は厚く、色白の美人も多い。そして五月の街路樹の「くす」の新緑は、目にしみるほど鮮やかである。

そんな鹿兒島にも桜島の降灰という泣き所がある。地元ではよく「さつまなる父は桜島、母は錦江湾」と言う。その桜島も近年は火山活動が活発である。昨年開催された国際火山会議の全体テーマは「火山と人との共存」だったが、どのようにしたら共存出来るのだろうか。そして桜島の降灰はいつまで続くのだろうか。

最近、鹿兒島県から南薩サンリゾート構想案が発表されたが、どんなにすばらしい自然環境があ

た。

ところが、四十年の年月と樹木の生育により、全く山の相は変わっていた。

稜線に沿って、深さ五十センチ位の境界溝があつたが、これが全く土砂で消えていた。

また、点々と点在していた岩も、或ものは以前より土中に埋まり、或るものは全身を現わすなど、雨水の浸蝕は、思った以上に大きく地表を変えていた。植林していても、この有様である。

こんな生育条件の中であの小さな苗木が、彼等なりに四十年間風雨に叩かれ、又、足元を雨水に洗われながら、これまで生長してきたのである。

つてもそれだけで人は呼べない。そこに住む一人一人の美しい、快適な、清潔な街づくりの熱意がそこに人を集める。桜島の灰についても、せめて自分の家の前の降灰ぐらひは自らの手で始末するという意気込みが、お役所の降灰対策をもっと強力に推し進める原動力になることは間違いない。



さらには、これからの街づくりに降灰にさらされない地域に都市の分散化をはかるという大胆な発想があつてもよいのではないか。灰にまみれながら、その思いを強くするこの頃である。

私は、何回も梢を見上げながら、幹を叩き木肌を愛でていた。那路、中国での兵役経験のある父が、田舎の農夫にしては珍らしく、見識がかったことを言った。

あの気の長い中国人が植林しない理由は、国の治乱興亡が激しく所有権が長期間保証されていないからだろうと。

近頃の中国関係記事を読んでいると、そうかもしれないと思つた。

# 21年目の写真

野見山ヨガ整美体操研究所

野見山 洋子 (S37年文学部卒)

中曾根元首相の如く、中心人物のそばにびったり、という芸当の出来ない自分にとって、小桜先生のそばで写っている数少ない、懐かしい、大切な写真の一枚です。

現在の仕事を始めるきっかけは、先生の書かれた『やせる体操 太る体操』というユニークなタイトルの本でした。当時結婚したばかり、高校での体育の教鞭の経験はあるものの役にたたず、精神的な問題で体重は減るばかり。あせりと心もとなきで、手がかりを求めて本を読みあさり、食べる方も努力していました。医者の方にホルモン注射してもらったりしたのですが、効果は疑問でした。今考えると馬鹿げた、恐しい事をしたものです。初めて見た「太る体操」という題に飛びついたので言

て、食事療法を加えたものでした。説明通りに試してみました。元来、体は柔らかい方でしたので、ほとんど出来ました。でも体が動くからと、すぐにどうなるものでもありません。

そうこうする内に、毎週テレビで会えるという幸運がやって来ました。本よりずっと具体的であり、興味を湧きます。「直接教えて頂きたい」という望みを抑え切れず出産後上京、直談判でした。一通りレッスンの後、「指導者になる様、頑張りなさい」とおっしゃって下さったのです。夫君上原氏の故郷から、わざわざ出て来たという田舎娘への社交辞令だったのでしようが、この一言で「よし、やってみよう」。太りたいという希望の他に、もう一つの

音のしそうな長いまつげ、まろやかで少し浅黒く引き締まった体、つつくと折れそうだけどきつちりと細い足首、黒く房々とした白髪のない髪。「かつらじゃないわよ、自毛よ」とおどけて引つ張って、笑われた事もありました。「もつと締めてよ」とお尻を人差し指と親指ではじかれた事も何回か。先生の前だと、どんなに疲れていても、すべて出来ます。催眠術をかけた

もう一つの目的が出来ました。名門の出の上に女優さんをしていらした経歴もあり、美しいというだけではない気品に溢れていらつしやいました。目をつむる

がよく行かれたロサンゼルス教室跡を訪ねる旅に発つのに、一年以上を要してしまいました。お花がお好きで、頂いたものはすべてきちんと持って帰られました。夫君上原氏の誕生日十一月七日を、年一回の全国の生徒達との懇親会の日となるやさしきで、子息加山雄三氏率いる「ランチヤーズ」の演奏を聞き乍ら食事、という楽しいものでした。お酒を非常に愛され、これだけは私がしっかりと引き受けて居ります。

現在、東京・大阪・名古屋と先輩方が頑張っている様ですが、組織を大きくして免許を簡単に与え、裾野を広げて行こうという商才は、私にはありません。あくまでも地道に一人一人の生徒さんと接し、その人の「心」が「呼吸」が「動き」が、正しくバランスのとれたものになる様お手伝いするのみです。

昭和四十三年六月八日は、二年余りのラブコールに応えて師の故小桜葉子先生(上原謙夫人)が来鹿された、記念すべき日です。県文化センターの舞台上、助手としてついでいらした義妹の喜多嶋さん(女優喜多嶋舞の祖母)と、当時私の生徒さんだった古江真知子先生(医学博士)の四人で上りました。来鹿された時が今年の自分の年と同じだと思いついた時、無性に写真の先生にお会いしたくなりました。先進国サミットにおける

菩薩様みたいな先生のレオタード姿の写真付きです。「整美体操」という、ヨガにデンマーク体操と柔の受け身の良さを合わせて、一時間三十分にとめたもので、東宝映画の嘱託医の桜井博士が考案され、それを小桜先生が改良し



門の出の上に女優さんをしていらした経歴もあり、美しいというだけではない気品に溢れていらつしやいました。目をつむる

長年の鍛練で若々しい体への癌の攻撃は、早かったのでしょうか。健康を過信なさったのでしようか?。あまりのあつけないお別れに方針も決まらず、心の整理に先生

指導を始めて、二十年過ぎました。先生から教えて頂いた事は少しもあせず、日本での「健康美容体操」の草分けとしての先見性、輝き、にはいささかのかげりもないと、誇りを持って修行中です。「食は命なり」「正しい呼吸と動きが脳を活性化する」という有形・無形の大きな財産は、後年私淑した沖ヨガの沖正弘導師の「本物を追求せよ」の言葉と共に、終生、消えるものではありません。

### 早慶対抗ゴルフコンペ 開催日時決まる

なかなかゴルフ場の予約がとれなかった為、延期になっておりました早慶対抗ゴルフコンペは、11月23日(勤労感謝の日)、場所は吉野ゴルフクラブ、午前8時集合に決定しました。ふるって御参加下さい。

鹿児島海陸運送取締役営業部長

幹事・大西 儀朋 (S59年教育学部卒)

### 早慶対抗ゴルフコンペ成績集計表

年・日・時	開催ゴルフクラブ	入賞者	優勝校	参加人員	回数
S 60・3・3	霧島G・C	3位 玉川 文生 W 46年政経	優勝 小山 政俊 W 53年商	慶 応 34名	4
S 60・10・10	蒲生C・C	3位 屋室 友紀 W 49年理工	優勝 山元 正恒 K 36年法	早 稲 田 32名	5
S 61・4・6	霧島G・C	3位 上原 昌徳 K 38年経済	優勝 諏訪 秀治 K 44年経済	早 稲 田 不明	6
S 61・11・1	蒲生C・C	3位 川畑 孝則 W 46年商	優勝 内村 建吉 K 41年商	慶 応 26名	7
S 62・4・19	蒲生C・C	3位 豎山 博美 W 32年政経	優勝 川畑 孝則 W 46年商	早 稲 田 26名	8
S 62・11・3	南国C・C	3位 馬場 弘人 W 45年教	優勝 吉富 信雄 K 35年経済	早 稲 田 32名	9
S 63・4・10	蒲生C・C	3位 飯島 達徳 W 38年政経	優勝 新村 研一 K 40年医	慶 応 45名	10
S 63・11・6	鹿屋G・C	3位 伊東 達男 W 29年商	優勝 馬場 弘人 W 45年教	早 稲 田 18名	11

通算成績 5勝6敗 (注) 第1回~3回大会までは資料なし



石橋内閣以来三十一年振りに第七十四代竹下総理が誕生し、早稲田内閣出現に対する校友関係の感極まった喜びは、つい先日のことであった。

あれから宇野政権につづき、八月九日には第七十六代海部総理大臣が誕生し、海部内閣を支える大臣にも数多くの校友が就任した。

二年の間に二人の早大出身総理大臣が出現したことは、誠に

## 海部総理大臣を誇りに

早稲田大学校友会鹿児島県支部長  
鹿児島稲門会会長

松元 茂 (S25年政経学部卒)

喜びにたえないし、百有余年の歴史をもつ早稲田大学の伝統の深さと大きさを感ずる。  
日本は明治維新以来、世界が驚く発展をとげてきたが、その多くは官僚的な体質のもとに発展してきた。大隈総長は権力をふりかざ

横たわっているが、苦難の時にこそ發揮されるのがワセダスピリットである。  
マスコミは海部政権は短命だとか暫定政権などと論評している。しかし、決してそうではない。参議院選挙で保革逆転というドン底

問題も着々と手を打ち、新聞の世論調査では急速に良い方向に評価が上がつてきている。  
海部総理は運の強い人である。二十九早大卒業、二十九回の総選挙、二十九歳で初当選、最初に入った議員会館の部屋番号が六二九、二十九年後には総理につく。この数字は「フック」と読むのだそうである。この次の総選挙では是非、圧倒的勝利をあげて貰いたい。

海部総理がいつか来鹿される時があると思うが、吾々早大稲門会の皆で総理大臣をかこみ、「都の西北」を声高らかに合唱するチャンスが訪れることをお願い願うものである。

### 編集後記

六月に第一号を発行して以来、今回で二回目。少しはましになってきたでしょうか。

実は十月に発行するつもりで作業を進めていたのですが、何分、会報委員が素人ぞろいのおかげ、勤務先もバラバラ、出張や会議などで打ち合わせもままならず、残念ながら十一月の発行となつてしまいました。

お忙しいなか、執筆してくださいました皆さまには、大変ご迷惑をおかけしました。会報委員一同、心からお詫び申し上げます。

《会報委員》

中村 眞・磯 大作・久保英司  
辛島史朗・大西儀朋